

第203号

平成23年5月10日

病院だより

International Goodwill Hospital

第3回しんぜん院外健康教室

肺がん ～早く見つけるために～

Kana Ohiwa

大岩 加奈

横浜市災害派遣医療チームに参加して

Makoto Shimizu

清水 誠

国際親善総合病院

URL <http://shinzen.jp>

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045 (813) 0221 (代表)
FAX 045 (813) 7419 (庶務課)

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



横浜市災害派遣 医療チームに参加して



【平成23年4月11日午後2時46分】

「私の腰が痛いのは若いころからで・・・」気仙沼市郊外の公民館を往診していた私たちが、側腹部痛を診てほしいという高齢女性の話を聞いている時、市内各所から長く続くサイレンの音が聞こえ、あちこちからお寺の鐘の音が響いた。(あっ、そうだ)マグニチュード9.0の地震とそれに引き続く未曾有の津波によって東北関東各地に大きな被害をもたらした東日本大震災からちょうど一ヶ月目のこの日この時、1分間の黙祷が行われ、我々は診察途中であったが手の動きを止めた。既往歴を話していたこの女性も周りの雰囲気気付いて言葉を止め、公民館の中でゲームをしていた子供たちも静かになり、辺りを静寂が一瞬包んだ。「あの時からすべてが始まったんだね・・・」女性は小さな声でつぶやき、一ヶ月間の記憶が蘇ったのであろうか、涙ぐんでいた。

横浜市災害医療派遣チームの第9班として当院の清水・佐々木医師が、第10班として谷崎医師が、震災と津波により市の中心部も含め壊滅的な被害を受けた宮城県気仙沼市に派遣されました。横浜市内の2次救急病院などから参加医師・看護師を募集し、5-6名のチームを結成し、4日間ずつ現地で主として避難所の救護室にて診察にあたりました。横浜市健康福祉局の手配で往復の車・現地での宿舎・食事などは確保され、市の職員が運転手兼事務員として同行していただきました。担当した避難所の中学校では、体育館に約300名の被災者が、マットを敷いて毛布にくるまって避難生活をしており、中学校の保健室を臨時の診察室にして被災者の診療にあたりました。診療内容は我々が行った頃には外傷などは皆無で、集団生活のストレス(不眠)や慢性疾患(高血圧、喘息)、花粉症、感冒、胃腸炎など日常的な疾患の患者が主で、薬剤は不足なく供給されていました。電気・携帯を含めた電話は復旧していましたが、上下水道・ガスは開通していないため、集団生活と仮設トイレで衛生面では不安があり、急性腸炎などの発生には特に注意していた時期でした。東京都や山形県などから来た医師・看護師・薬剤師などと一緒に短い期間でしたが医療を真に必要としている人の力になるという面で医療の原点に触れた思いがしました。

震災・津波の被害の惨状には言葉もなく立ち尽くすしかできませんでしたが、この貴重な経験を日常診療に生かしていきたいと心に誓いました。温かく我々を送り出してくださいました村井病院長をはじめとするスタッフ、そして休診等で御迷惑をおかけいたしました患者さんに心より御礼申し上げます。



診療部長 清水 誠

肺がん

～早く見つけるために～

肺がんは、わたくしたち人間が生きていくうえでかせない「呼吸」を行っている「肺」という臓器にできた「がん（悪性腫瘍）」であります。「がん」と言いますと一昔前までは、不治の病と恐れられていたものですが、近年医療技術の進歩により少しずつではありますが治るケースが増えてきております。しかし、それでも肺がんの多くの症例がいまだに進行した状態で発見される事が多いのが現状です。しかも肺がんは、ここ 10 数年で年々増えてきた病気です。それまでは日本人に代表的ながんといえば胃がんでした。しかし、ちょうど 10 年前の 1998 年に、一年間のうちに肺がんでお亡くなりになる方の人数が胃がんでお亡くなりになる方の人数を上回り、現在も増加傾向（2009 年のわが国での肺がんによる死亡者数：男性 49,022 人、女性 18,546 人、合計 67,568 人）を示しています。

検診が大切です。

早期発見

肺がんと闘い勝つためには早期発見がかかせません。無症状のうちに発見することが大切です。肺がん検診の普及により早い段階で肺癌が発見されることが増えてきはいるものの、一方では進行した状態で初めて病院へ運ばれてくる方も少なくありません。肺がんにとって検診が如何に大切で重要かをこの機会に実感していただき、実行していただきたいと思ひます。

また、肺がんの基本的知識についても合わせてお話させていただきます。

呼吸器外科医長 大岩 加奈

このテーマは

平成23年 6月10日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

横浜市 中川地区センター・国際親善総合病院 共催

第3回

しんぜん院外健康教室

開催日時 平成23年6月29日(水) 10:00~11:30

開催場所 中川地区センター 2階中小会議室

テーマ あなたの腎臓は大丈夫ですか？

—増加する慢性腎臓病について—

講師：国際親善総合病院 腎臓・高血圧内科部長 酒井 政司
(日本腎臓学会専門医、日本高血圧学会専門医指導医、日本透析医学会専門医)

「人は血管から老いる」ある偉大な医師の残した言葉があります。現在、世界各地で高血圧症・糖尿病・メタボリック症候群といった生活習慣病が激増し、同時に進行する高齢化社会も相まって動脈硬化性疾患が増加しており、脳卒中（脳梗塞・脳出血）や虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、そして慢性腎臓病（糖尿病性腎症・腎硬化症）といった病気が増え続けています。

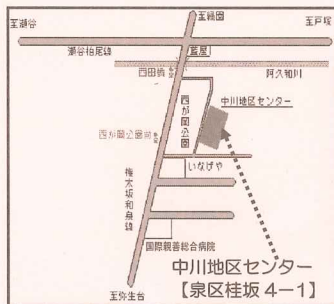
現在、我が国において慢性腎臓病と診断される患者数は1,330万人（成人8人に1人）と推計され、さらに腎機能が廃絶し透析療法を行っている患者数はもうじき30万人（国民450人に1人）を超えると予想され、正に慢性腎臓病は国民病であるとの認識がなされるようになりました。

慢性腎臓病の多くは数十年に及ぶ生活習慣病に由来しますが、特段の自覚症状がないため知らず知らずのうちに進行していきます。そして腎機能が低下してしまうと機能を回復させる特効薬がある訳ではなく、透析導入までの期間を延長させる術しかありません。「慢性腎臓病」と診断された日から、いや、その前から正しい生活習慣を身につけ、健康を維持し病気を未然に予防していく考え方が大切です。健康教室では、慢性腎臓病の現況について概説し食事・運動・薬物療法などについてお話させて頂く予定です。

みなさまへ

『しんぜん院外健康教室』は、地域の皆さまを対象として疾患予防と健康増進のために開催しておりますので、お気軽にご参加ください。

当日受付
参加費無料
先着100名



国際親善総合病院

【お問い合わせ先】庶務課 木村、比留川
TEL: 045 (813) 0221 (内線 2274)